大野陽朗先生

海野和三郎

北大名誉教授大野陽朗先生が92歳で亡くなられて4カ月ほどになるそうですが，つい昨日今日のことであるような気がしてならない．大野さんは形式ばったことの嫌いなデイレッタンティズムの人であった．もとは非局所場の理論をやっていたらしいが，戦事研究か何かで首を突っ込んだ衝撃波理論を引っ下げて天体物理に飛び込んできた．昭和30年前後のことであったろうか．大野さんは私にとっては10歳あまり年上の兄貴分であったが，どういうわけかたいへん馬が合って，例の開けっぴろげの人のいい笑顔で近づいてきた．今になって考えるとどうもこれには後に述べるような因縁がからんでいるらしいのだが，お互いにそんなことは知らずただ何となく親しくなった．

戦後初期の天文学は，何と言ってもまだ位置天文学，天体力学が中心的であり，天体物理学は東北の一柳寿一先生，東京の藤田良雄・畑中武夫両先生，京都の宮本正太郎先生を中心とした3グループが活躍を始め，東京天文台（今の国立天文台）では大沢(清輝)さん末元(善三郎)さんが復員してそれぞれ恒星の光電測光，太陽の高分散分光測光をスタートさせた．その頃，林(忠四郎)さんはほとんど一人で太陽程度の小質量星の進化を研究していた．私の記憶も怪しくなるが，大野さんが衝撃波理論を天体物理に持ち込んだのもその頃かそれより少し後であったかもしれないが，岡山の74インチ望遠鏡や野辺山電波天文台ができ，またX線天文が盛んになってきた時機よりも少し前であったように思われる．大野さんの先見の明と言うべきであろう．もう一つの大野さんの大きな功績は，北大に強力な宇宙物理のスクールを創ったことである．坂下(志郎)さんや浜田(哲夫)さんらの協力も大きいが，どうも大野さん自身の人柄が北大グループの成長に大きく寄与したような気がしてならない．今年春の学会で，北大勢の衝撃波理論を応用した優れた講演を聞く機会があったが，今の人は大野さんとは面識もないであろうが，確かに大野さんの衣鉢を継いでいるものと認められた．同じことは，浜田さんから田中(靖夫)さんに至る茨城大グループについても言えよう．私自身も，京都フォーラムでソーラーポンドに関する小さな国際シンポジウムで大野さんのお弟子さんの佐藤　順さんとエネルギー・地球環境問題を議論したことがある．

天文の大先輩に新高山天文台を作ろうと努力された窪川一雄さんがいた．窪川さんは，いわば日本の天体物理の草分けで，確か天文月報に窪川さんのこと新高山天文台のことを書いたことがある．それが，窪川夫人から当時新高山天文台建設を手伝った周　明徳さんに回り，周さんの自伝的な書き物にさらに詳しい窪川物語が出て，それがフィードバックしてまた何人もの人の耳に入ることになった．その一人に大野先生がいた．大野先生が（旧制）浦和高校の生徒であった頃，K嬢（後の窪川夫人）のお宅のそばに下宿がありよくお茶を飲みに伺ったことがあったそうである．K嬢は実は私の長姉の同級生で，努力家の長姉がどうしても敵わなかった才媛であったが，そのK嬢が浦高の生徒大野陽朗の叶わぬ初恋の人であったと2, 3年前大野さんからこっそり伺った．年をとると因縁の糸のからまりがしばしば見えてくるようである．南無阿弥陀仏．

（NPO東京自由大学学長）